

## **脊椎外科（指導医：坂本 武志、堤 良祐、中嶋 崇貴、姜 顯炅）**

2022 年 1 年間の脊椎手術の件数は、頸椎 56 件、胸腰椎 190 件（腫瘍含む）、総数 246 件です。

対象疾患については、手足のしびれ、歩行障害、お箸が使いにくいなどの手指巧緻運動障害を生じる**頸椎症 性脊髄症**、片側上肢の痛みやしびれを生じる**頸椎椎間板ヘルニア**、**頸椎症性神経根症**、間欠跛行を呈する**腰部 脊柱管狭窄症**が主な疾患ですが、**上位頸椎**や**成人脊柱変形（側弯や後弯）**の低侵襲手術も積極的に行っています。

2019 年には、手術用顕微鏡が最新式にバージョンアップされ、今まで以上に視野の確保、操作性の向上が得られました。2021 年に更新された最新ナビゲーションシステムの活用を含め、より安全かつ円滑に低侵襲手術を行える環境になっています。

術後は、頸椎、腰椎ともに翌日にドレーンを抜去し、離床を許可しています。除圧術のみの症例では術後 7- 12 日で、固定術を併用した症例では、2 週間以内で退院が可能となっています。もちろん麻痺の程度によっては、しばらくの間リハビリを行うこともありますが、ほとんどの患者さんは転院ではなく、自宅に帰っておられます。